

能登地域の概要、 トキ放鳥の実現に向けた取組について

能登地域トキ放鳥受入推進協議会副会長
七尾市長 茶谷 義隆

第2回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会
2023年10月23日

春木地区（中能登町）

1

能登地域の概要～「能登の里山里海」～

里山

白米千枚田

あえのこと



のとてまり

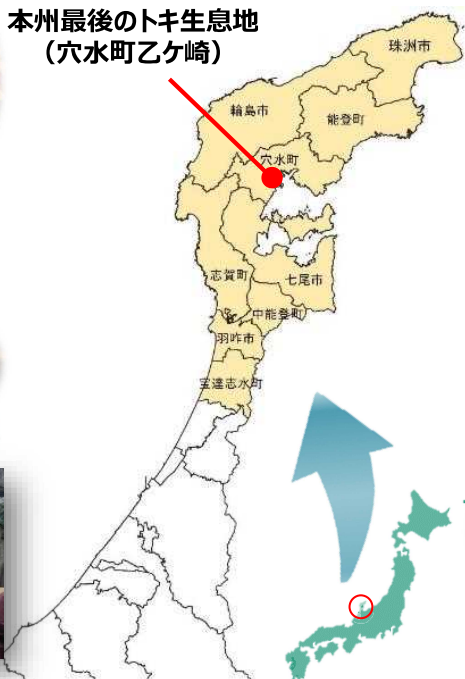
シャープゲンゴロウモドキ



炭焼き

能登半島

本州最後のトキ生息地
(穴水町乙ヶ崎)



里海

ボラ待ち櫓



輪島の海女漁



揚げ浜式塩田

能登地域は伝統的な農業や農法、豊かな生物多様性が評価され、

2011年6月に佐渡市とともに、我が国で初めて「世界農業遺産」に認定

2

能登地域の自然環境の概況

能登半島は農業（特に水田耕作）が盛んな地域であり、**トキの採餌環境となる水田について、取組範囲の南側に比較的大規模な水田地帯が広がっており、取組範囲北側の外浦地域には斜面を利用した棚田が多く残存**

水田には、ドジョウ、タニシ類など、**トキの餌となる数多くの小型動物が生息する**ほか、ゲンゴロウ類などの希少生物も数多く生息

能登半島全域のほとんどが森林に覆われ、水田と入り組んだ環境を創出しており、**トキの営巣環境となるスギやスダジイ、クロマツが散在**

本県には2010年以降、**3羽のトキが飛来**



2015年に珠州市で撮影された野生のトキ

3

石川県のトキの分散飼育、一般公開の取組

◆分散飼育

能登は本州最後のトキ・能里の生息地で大変ゆかりが深い土地



全国に先駆け、いしかわ動物園で**分散飼育を開始**（H22～）

→ これまでに90羽を成育
88羽を佐渡に返還



本州最後のトキ「能里」



分散飼育を開始
40年ぶりの里帰り

◆一般公開（本州では初）

いしかわ動物園「トキ里山館」で**一般公開を開始**（H28～）

→ 本物のトキの羽根を触ったりできる
体験型の展示など、学習展示コー
ナーを併設



「トキ里山館」全景



観覧通路からの景色



学習展示コーナー

4

取組方針

能登地域でのトキの放鳥については、トキが野生下で生息していた自然環境を取り戻し、次の世代に受け継いでいくとともに、世界農業遺産「能登の里山里海」の価値をさらに高め、農林水産物のブランド化や交流人口の拡大など、能登地域の活性化に大いに寄与するものと考えている



早ければ令和8年度となる放鳥に向け、生息環境の整備やトキを受け入れる機運の醸成、環境教育の推進など、県民が一丸となって、トキと共生する里地づくりの取組を推進し、トキが羽ばたく石川を目指した取組を進める

5

取組を通じて目指す地域の姿

① 生物多様性への配慮が社会に浸透した「いしかわ」

多くの県民が里山里海の保全活動や体験学習に参加し、生物多様性保全の重要性と生態系サービスの持続可能な利用について理解が浸透



県民に生物多様性に配慮したライフスタイルが定着

② 生物多様性が確保され、野生のトキが舞う「いしかわ」

耕作放棄地や手入れが不足した森林の適切な利用が進む一方、環境保全型農業が浸透



トキが水田やビオトープでエサをとり、集落近くの林に巣をかけるなど、生きものでにぎわう里山が広がる

③ 生物多様性保全の取組を世界に発信する「いしかわ」

生物多様性の保全について理解を深めるブランド戦略の展開やエコツーリズム等の本県の地域振興が軌道に乗っている



こうした取組が世界に向けて発信され、国際的な生物多様性保全のモデルとして注目される

6

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組

◆能登地域トキ放鳥推進ロードマップの策定

能登地域での放鳥に向けた各種取組を計画的に進めていくため、ロードマップを策定
令和5年度を「実行元年」として、放鳥に向けた取組を実施

能登地域トキ放鳥推進ロードマップ					
項目	R4 <着手>	R5 <実行元年>	R6 <加速化>	R7 <仕上げ>	R8 <放鳥>
生息環境整備	【生息環境調査】 ●モデル地区の選定・整備 (各市町毎に1か所～計9か所)	●生息環境調査の実施 ●モデル地区の管理・生きもの調査 ●民間提案技術による耕作放棄地の整備化	●モデル地区の取組の横展開 ●民間提案技術の検証を踏まえた耕作マニュアルの作成		
	【営巣環境の保全】	●営巣候補地の選定 (各市町毎に1か所～計9か所)	●営巣林保全マニュアルの作成 (薬剤の樹幹注入、松くい虫 被害木の伐倒処理、間伐)	●営巣候補地の保全	
	【天敵対策】		●天敵分布状況調査 (テン・イタチ・タヌキなど)	●天敵対応マニュアルの作成(営巣木への波板設置など) ●天敵対応の実践訓練	
	【事業活動における生息環境への配慮の要請】			●マニュアルの作成・普及	
	●トキと共生する里地づくりネットワーク協議会(取組状況や課題の共有) ●関係団体とのネットワークの構築(各種取組の情報共有)				
社会環境整備	【農業者等に対する理解促進】 ●シンポジウムの開催 ●広域市視察	●いしかわトキの日(5月22日)の制定			
	【子ども達に対する環境教育】 ●教材の作成	●環境教育の実施			
	【観察マナーの啓発】		●観察マニュアルの作成	●いしかわ版「トキのみかた」の作成	●いしかわ版「トキのみかた」の設置 (放鳥後、タイミングを見て設置)
放鳥に 関係する 検討	【トキ放鳥推進人材の参画・養成】	●地域の草刈り等を手伝うトキめき ボランティアの参画促進と受入支援	●地域で餌場確保や営巣地保全等の指導を行う人材の養成 ●地域で観察マナーの啓発等を行う人材の養成		
	【風力発電や畜産など、佐渡市にない課題の研究】	●先進地ヒアリング、専門家ヒアリング			
	【放鳥したトキのモニタリング体制や救護体制の構築】		●モニタリング体制の構築・運用 ●トキの観察地点・餌生物・営巣林等のデータベースの構築・運用	●傷病トキ発見時の連絡・搬送・治療体制の構築・運用	
地域 活性化	●環境省に対する放鳥要件や放鳥方法の早期提示等の要望(方針決定後、必要な検討を追加で実施)				
	【地場産品のブランド化のための戦略策定】	●ブランド化専門委員会の設置 ●ロゴマーク、キャッチフレーズ等の作成 ●キャラクター商品開発 ●商標登録 ●米などの農林水産物のブランド化に向けた検討	●トキとの共生の気運の醸成 ●モデル地区等で生産した米の販路確保		
	【交流人口の拡大】	●環境保全型農業技術の確立・実証		●トキツーリズムの構築 ●旅館、ホテル、旅行会社従業員への啓発	●次期計画の策定(具体的放鳥計画と放鳥後の定着化計画)

7

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（生息環境整備）

◆トキ放鳥推進モデル地区の選定・整備

●目的

能登地域の4市5町で餌場となる水田をモデル的に整備し、餌場環境を確保するとともに、農業者をはじめとする地域の方々の意識醸成を図る

●内容

- ・能登地域の4市5町において、各市町毎に1地区トキ放鳥推進モデル地区を選定
- ・江や魚道などを設置するなど、トキの餌場となる水田をモデル的に整備し、水稻栽培を実施
- ・今後、取組成果を検証し、横展開を図る



◆は七尾市による単独整備地区

8

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（生息環境整備）

◆「いしかわ田んぼ生きもの調査」の実施

●目的

- ・モデル地区における餌場の状況を検証
- ・地域を挙げたトキが生息できる環境の理解促進

●内容

- ・「いしかわ田んぼの生きもの調査」マニュアルに基づき、年に2回（6月頃と8月頃）、地元の農業者の皆さんに、水田や畦などにいる生き物を調べてもらうもの
- ・対象はオタジャマクシやドジョウ、水生昆虫など17種類



生きもの調査の様子



生きものを観察する様子



生きものの解説

9

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（生息環境整備）

◆民間技術によるトキの餌資源量増加の実証（公募）

●目的

トキの餌となるドジョウやカエル等が生息しやすい環境を整備するため、耕作放棄地などを活用し、餌資源量の増加に資する民間技術の実証を支援

●実施主体

餌資源量の増加に資する技術の実証に取り組む民間企業

●内容

支援内容：民間企業が行う実証に要する経費を助成

（※作業に係る人件費または委託費、動力光熱費、実証効果の調査委託費など）

助成限度額：2,000千円（助成率3/4以内）

→取組を通じ耕作放棄地の餌場への活用など里山環境の保全を期待

⇒令和5年6月30日～8月25日の期間で公募を実施

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆トキの生態や本県の取組等を解説したデジタルコンテンツの作成

- トキの生態や観察マナー等を広く紹介するためのデジタルコンテンツを3本作成し、県内の教育委員会や小中学校等での活用の働きかけを実施

- ▶ 全体編：石川県とトキとのつながりや、トキの観察マナー、能登地域での放鳥に向けた取組等を紹介
- ▶ 野生復帰編：トキの野生復帰に向けた準備から放鳥に至るまでの取組、野生復帰がもたらす効果を丁寧に紹介
- ▶ 生態編：トキの生態や生息環境等を丁寧に紹介



デジタルコンテンツ



手話版

それぞれ通常版、字幕版、手話版を3種類を作成し、様々な方に視聴いただけるよう対応

11

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆能登地域トキ放鳥受入推進協議会ホームページを開設

●目的

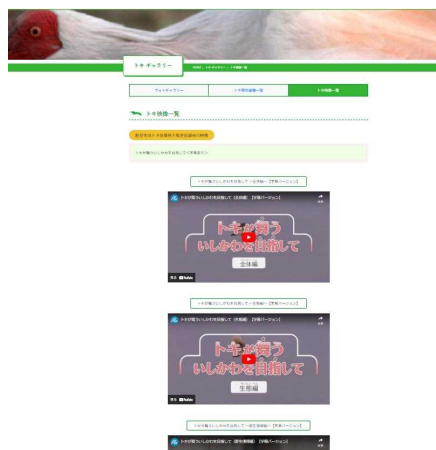
協議会の概要や放鳥に向けたトキが生息できる環境整備の取り組み、トキの観察マナー等を情報発信する

●内容

放鳥に向けた取り組みのほか、いしかわ動物園での分散飼育の取り組みやデジタルコンテンツを掲載し、イベント情報などの随時お知らせ



トップページ



デジタルコンテンツ等を掲載

12

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆「いしかわトキの日記念キックオフイベント」の開催

トキの学名である「ニッポニア・ニッポン」にちなみ、国際生物多様性の日でもある
5月22日を「いしかわトキの日」に制定

トキとの共生に向けた機運醸成を図るため、5月21日（日）に記念キックオフイベントを県内全域で開催

＜能登地区＞

- ・トキについて楽しく学べる参加型授業（穴水町）
- ・田んぼの中の生きもの観察会（七尾市）

＜金沢市近郊＞

- ・環境省希少種保全推進室長と環境系エンターテイナー「WoWキツネザル」氏によるトキの生態等をテーマとしたトークセッションとトキクイズ（津幡町）※Youtubeでもライブ配信
- ・野鳥観察会（津幡町）
- ・絵本の読み聞かせとクイズ（金沢市）

＜加賀地区＞

- ・トキの折り紙体験会、ビオトープ観察会（能美市）



トークセッションの様子



生きもの観察会の様子

1 3

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆「能登地域トキ放鳥推進シンポジウム」の開催

・基調講演

「豊岡市におけるコウノトリの取組について」
豊岡市コウノトリ共生部長
坂本 成彦 氏



豊岡市 坂本コウノトリ共生部長の講演

・県立金沢泉丘高等学校新聞部による取組発表



金沢泉丘高等学校新聞部の発表

・パネルディスカッション

テーマ：トキとの共生による地域の活性化

▶コーディネーター

食プランナー

つぐま たか子 氏

▶パネリスト

坂本 成彦 氏

農事組合法人アグリスターオナガ代表

濱田 栄治 氏

株式会社食文化取締役

井上 真一 氏



パネルディスカッション

1 4

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆「トキめきボランティア」の実施

●目的

ドジョウやカエル等が生息するトキの餌場を整備するため、能登地域の農業者が行う、畦の草刈りや魚道の整備・補修等の取り組みを支援するとともに、取り組みの理解促進を図り、県全体でのトキ放鳥に向けた機運を醸成

●内容

トキの餌場となる水田の畦道の除草、生きもの調査等



畦の草刈りの様子



トキめきボランティア参加者

15

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（生息環境整備）

◆今後の取組

●トキ放鳥推進モデル地区の取組成果の検証・横展開

- ・トキ放鳥推進モデル地区における、江や魚道等の効果を検証
- ・今後、取組成果を踏まえ、餌場の確保に取り組む地区の拡大を図る

●民間技術によるトキの餌資源量増加の実証

- ・今年度公募した事業の審査、採択を実施
- ・実証期間：R5.11月頃～R6.3月末

●営巣候補林の選定

- ・トキ放鳥に向けた取り組みを進めている能登地域の4市5町においてモデル的に林を選定

16

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（社会環境整備）

◆今後の取組

●県内農業者等を対象とした先進地視察

- ・令和８年度以降に予定されている放鳥の実現に向けて、生物多様性保全の先進地における取組事例や環境整備に取り組む方の経験を学び、放鳥受入に向けた具体的な取組につなげる機会とする



昨年度実施した佐渡視察の様子

17

能登地域でのトキ放鳥の実現に向けた取組（放鳥に備えた検討）

◆今後の取組

●本州固有の課題（風力発電、電気柵など）の研究等

- ・専門家から、風力発電施設や電気柵の影響等について聞き取りを実施



R4年度第2回専門委員会の様子

18

◆今後の取組

●ブランド戦略の検討

- ・「ブランド専門委員会」を立ち上げ、ブランド戦略の方針案を検討
- ・ブランド戦略の策定、ロゴマーク・キャッチフレーズの作成を行うとともに、米などの農林水産物のブランド化に向けた検討を実施

関係機関と協力しながら、トキが半世紀ぶりに石川・能登の大空に舞うという夢の実現に向けて取り組んでいきます。

